

## 第3章 単元計画の作成 【解説P60～63】

### 第1節 単元計画の基本的な考え方

単元とは、生徒の学習過程における学習活動の一連の「まとまり」という意味である。単元計画の作成とは、教師が意図やねらいをもって、このまとまりを適切に生み出そうとする作業に他ならない。単元づくりは、教師の自立的で創造的な営みである。学校としてすでに十分な実践経験が蓄積され、毎年実施する価値のある単元計画が存在する場合でも、改めて目の前の生徒の実態に即して、単元づくりを行う必要がある。

単元計画の作成は、大きく次の2つに分けることができる。まずはじめに単元を構想する。次に単元の計画を具体的に書き表す。実際には、2つの作業を行きつ戻りつして望ましい単元計画を作成していくことが大切である。

#### 1. 単元計画作成の手順

単元計画の作成にあたっては、次ページ「単元計画作成の手順チャート」にそって、以下の①～③の手順が考えられる。

##### ① 全体計画・年間指導計画を踏まえる

単元計画を作成するにあたっては、その前提として、学校の全体計画・年間指導計画を踏まえる必要がある。

##### ② 3つの視点から、中心となる活動を思い描く

単元構想の出発点として、「生徒の興味・関心」「教師の願い」「教材の特性」の3つの視点が考えられる。どの視点から構想を始めても、他の2つの視点についても十分に思いを巡らせることが大切である。

###### ① 生徒の興味・関心

生徒の実態や興味・関心を出発点とすることで、生徒の主体的な活動が保障できる。

###### ② 教師の願い

教師の願いを出発点とすることで、どんな内容について学ばせたいのか、どんな資質や能力及び態度を身に付けさせたいのかを明確にした単元構想が可能となる。

###### ③ 教材の特性

教材とは、生徒の学習を動機付け、方向付け、支える学習の素材のことである。

教材(学習材)の特性を出発点とすることで、どのような問題解決や探究活動を行うことができるか、明確に見通すことができる。その際、横断的・総合的な学習になるように意識することが求められる。

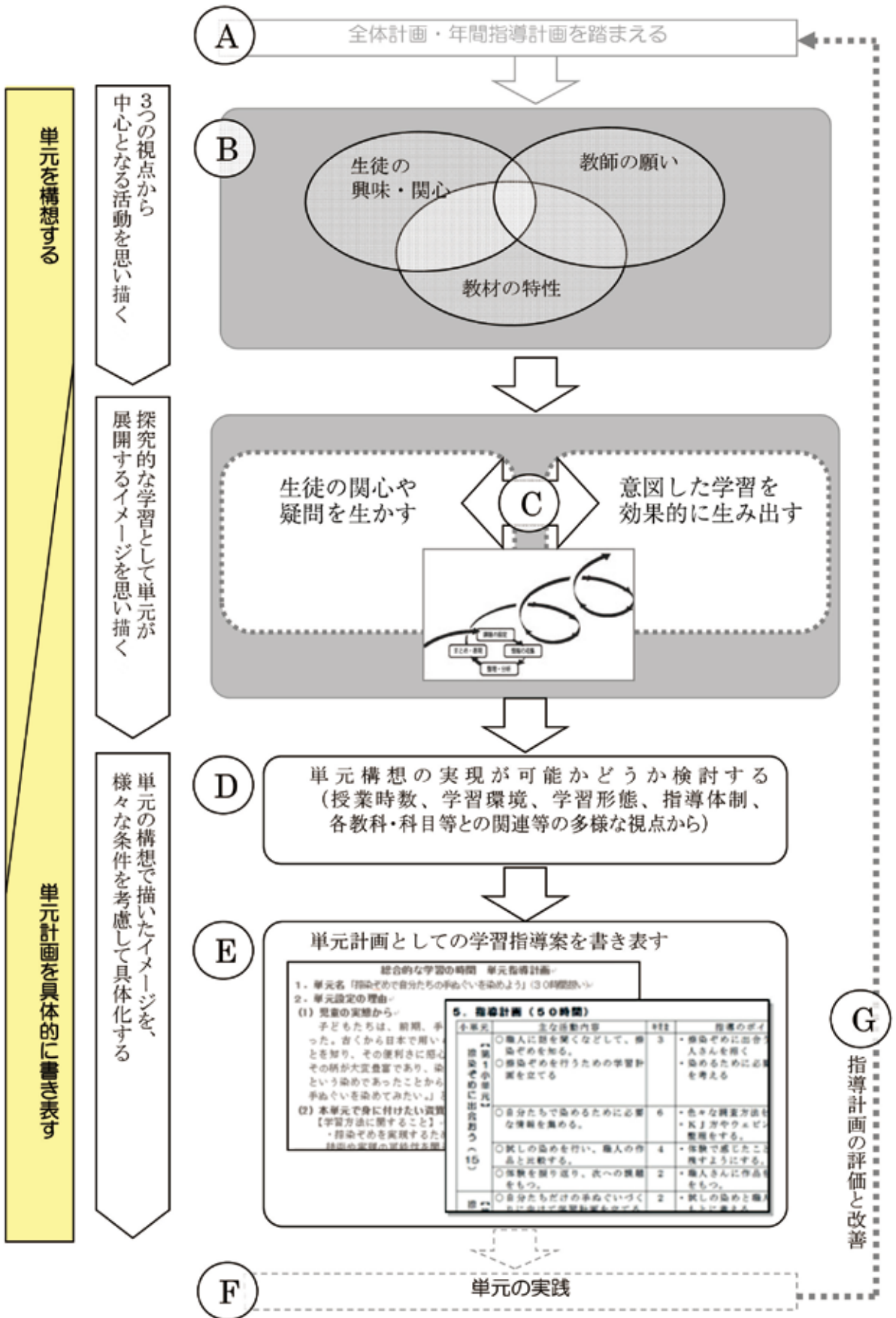


図1 単元計画作成の手順チャート

③ 探究的な学習として単元が展開するイメージを思い描く

④ 思い描いた中心的な活動を、生徒主体の価値ある探究的な学習にするためには、次の二つのポイントがある。

① 生徒による主体的で粘り強い問題の解決や探究活動を生み出すには、生徒の関心や疑問を重視し、適切に取り扱うこと。

② 問題の解決や探究活動の展開において、教師が意図した学習を効果的に生み出していくこと。

生徒が主体的に進める活動の展開においては、教師が意図した内容を生徒が自ら学んでいくように単元を構成する点に難しさがある。そこでまず、その関心や疑問から、生徒はどのような活動を求め、展開していこうかと考える。そして、活動の展開において出会う様々な問題場面と、その解決を目指して生徒が行う問題の解決や探究活動の様相、さらにそれぞれの学習活動を通して生徒が学ぶであろう事項について、考えられる可能性をできるだけ多面的、網羅的に予測する。もちろんその際には、各学校で定めた内容、育てたい資質や能力及び態度との照らし合わせを行う。

⑤ 単元構想の実現が可能かどうか検討する

まず、単元を構成する諸活動を考えた後に、各活動が生徒の意識や活動の自然な流れに沿って展開できるかを検討する。流れに不自然さや無理がある場合には、順番を入れ替えたり、活動の間に別の活動を挟んだり省略したりすることで、単元構想の実現可能性をより高めることができる。さらに、各活動の授業時数、学習環境、学習形態、指導体制、各教科・科目等との関連等の多様な視点から、単元構想が実現可能かどうか吟味する。

⑥ 単元計画としての学習指導案を書き表す

単元の計画を具体的に表現するには、以下のような構成要素が考えられる。

- |                   |                          |
|-------------------|--------------------------|
| ○単元名              | ○地域や学校の特色                |
| ○単元目標             | ○社会の要請                   |
| ○生徒の実態            | ○学校経営目標との関連              |
| ○育てようとする資質・能力及び態度 | ○学校研究課題との関連              |
| ○学習課題、学習対象、学習事項   | ○各教科・科目等との関連             |
| ○教材について           | ○単元の評価規準                 |
| ○教師の願い            | ○指導計画・評価計画            など |

⑦ 単元の実践

どれだけ丁寧に単元づくりを行っても、生徒の活動は教師の想定通りにはならない場合もある。その際には、計画通りに実行するのではなく、生徒の動きに応じて柔軟に修正しつつ学びを生みだそうとする、教師の構えが重要になってくる。

⑧ 指導計画の評価と改善

単元の実践を振り返り、単元計画を見直すとともに、次年度の全体計画や年間指導計画の改善に役立てることが必要である。

## 2. 単元計画としての学習指導案

単元計画を書き表す上での基本的なイメージは、次の図2のようになる。ここでは、単元計画の構成要素（単元計画に記される基本的な内容）について示し、その具体例については第2節において示す。

平成〇〇年度 〇〇高等学校 総合的な学習の時間 第〇学年（〇学〇組）単元計画												
<p><b>1 単元名</b></p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>総合的な学習の時間において、どのような横断的・総合的な学習や探究的な学習が展開されるかを一言で端的に表現したものが単元名である。総合的な学習の時間の単元名については、①生徒の学習の姿が具体的にイメージできる単元名にすること、②学習の高まりや目的が示唆できるようにすること、に配慮することが大切である。</p> </div>												
<p><b>2 単元設定の理由</b></p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ここでは、なぜこの単元を計画したかについて、様々な要素からその設定理由を述べる。要素としては、①生徒の実態、②育てようとする資質や能力及び態度、③教材について（内容とのかかわり）、④教師の願い、⑤地域や学校の特色、⑥社会の要請、⑦学校経営目標との関連、⑧学校研究課題との関連、⑨各教科・科目等との関連等が挙げられる。</p> </div>												
<p><b>3 単元目標</b></p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どのような学習を通して、生徒にどのような内容を学ばせ、どのような資質や能力及び態度を育成するのかを明確に示したものが単元目標である。各学校の目標や内容、育てようとする資質や能力及び態度を視野に入れ、中核となる学習活動をもとに構成することが考えられる。なお、目標の標記については、一文で示す場合、箇条書きにする場合などが考えられる。</p> </div>												
<p><b>4 単元の評価規準</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px;">評価の観点</td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">評価規準</td> <td colspan="4" style="padding: 5px;"> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>評価の観点を設定する際には、①総合的な学習の時間の目標を踏まえた観点、②各学校で定めた「育てようとする資質や能力及び態度」を踏まえた観点、③各教科の評価の観点との関連を明確にした観点の3つが考えられる。</p> </div> </td> </tr> </table>			評価の観点					評価規準	<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>評価の観点を設定する際には、①総合的な学習の時間の目標を踏まえた観点、②各学校で定めた「育てようとする資質や能力及び態度」を踏まえた観点、③各教科の評価の観点との関連を明確にした観点の3つが考えられる。</p> </div>			
評価の観点												
評価規準	<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>評価の観点を設定する際には、①総合的な学習の時間の目標を踏まえた観点、②各学校で定めた「育てようとする資質や能力及び態度」を踏まえた観点、③各教科の評価の観点との関連を明確にした観点の3つが考えられる。</p> </div>											
<p><b>5 指導計画（〇時間）</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%; padding: 5px;">学習過程 （時間数）</th> <th style="width: 40%; padding: 5px;">活動内容</th> <th style="width: 45%; padding: 5px;">指導のポイント・関連する 教科・科目等 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="padding: 5px;"> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>活動内容や時間数、学習環境をより具体的に記述するとともに、それぞれの活動における指導のポイントや関連する教科・科目等の学習内容、評価の視点等についても示すことが求められる。</p> </div> </td> </tr> </tbody> </table>			学習過程 （時間数）	活動内容	指導のポイント・関連する 教科・科目等 等				<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>活動内容や時間数、学習環境をより具体的に記述するとともに、それぞれの活動における指導のポイントや関連する教科・科目等の学習内容、評価の視点等についても示すことが求められる。</p> </div>			
学習過程 （時間数）	活動内容	指導のポイント・関連する 教科・科目等 等										
<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>活動内容や時間数、学習環境をより具体的に記述するとともに、それぞれの活動における指導のポイントや関連する教科・科目等の学習内容、評価の視点等についても示すことが求められる。</p> </div>												

図2 単元計画の基本的な構成要素

## 第2節 単元計画作成の具体的手順

前節の考え方に沿って、単元計画を作成した事例を示す。

単元名「大災害 その時私たちにできること」（第2学年 1単位）

### 《単元の概要》

学校で被災し、学校が避難所となったとき自分たちができることを考える活動を中心に、これまでの災害の歴史や被害予測、地域防災の現状、地域の方からの高校生への期待を知ることで、自分に何ができるかを主体的に考え、地域・社会の一員としての自覚を高めるよう学習活動を展開した単元である。

## 1. 全体計画・年間指導計画を踏まえる

### ■全体計画との関連

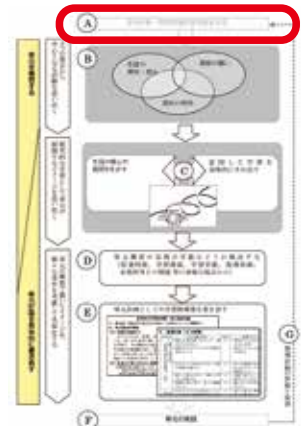
事例① A高等学校 総合的な学習の時間 全体計画

**<目標>**  
横断的・総合的な学習や探究的な活動を通し、自ら課題解決に取り組み、協同的な課題解決の学び方を身に付けるとともに、持続可能な社会の形成に参画するための自己の在り方生き方について考える。

**<学習対象>**  
防災のための安全な地域づくりとその取組

**<学習事項>**  
過去の災害、被害状況の認識とその反省に基づく防災意識や取組の意義  
地域社会の一員として、災害に備えた安全なまちづくり、学校づくりの担い手としての自覚と取組

**<目標>**  
横断的・総合的な学習や探究的な活動を通し、自ら課題解決に取り組み、協同的な課題解決の学び方を身に付けるとともに、持続可能な社会の形成に参画するための自己の在り方生き方について考える。



### 単元で扱う内容

**【学習対象】**  
防災のための安全な地域づくりとその取組

**【学習事項】**  
過去の災害の被害状況の認識とその反省に基づく防災意識や取組の意義  
地域社会の一員として、災害に備えた安全なまちづくり、学校づくりの担い手としての自覚と取組

### 本単元に主として育てようとする資質や能力及び態度

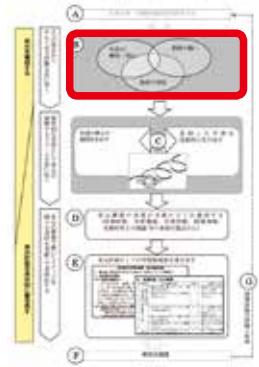
学習方法	・複雑な問題状況を踏まえて適切な課題を設定する。 ・複雑な問題状況における事実や関係を構造的に把握し、自分の考えを形成する。
自分自身	・自らの行為について当事者意識と責任をもって意思決定する。
他者や社会	・異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重しようとする。 ・課題の解決に向けて多様な社会活動に当事者意識をもって参画する。

### ■年間指導計画との関連

	1年生	2年生	3年生
4	<b>「探究への扉を開く」(18時間)</b> ①個別テーマを調査する ・個別課題を設定する ・個別レポートの作成 ②グループテーマで発表する ・グループ発表の準備 ・ポスターセッション  <b>「社会とつながる」(17時間)</b> ①職場実習を体験する ・訪問企業を決め、事前学習 ・職場実習 ②訪問企業のパンフレットを作る ・職場実習の報告を作成 ・訪問企業のパンフレット作り	<b>「大災害 そのとき私たちにできること」(35時間)</b> ①地域の被害想定を調査する(12時間) ・被害想定調査 ・ポスターセッション ②避難所での活動を具体化する(13時間) ・疑似体験による問題点の把握 ・避難所での具体策の検討 ③災害図上訓練を実施する(10時間) ・地域の人と合同訓練 ・社会参画の意識の確認	<b>「興味を深く掘り下げる」(22時間)</b> ①個別課題で論文を書く ・個別課題を設定する ・論文を作成する ②論文発表会で発表する ・発表資料を作成する ・全体発表会  <b>「社会問題を討論する」(13時間)</b> ①社会問題への理解を深める ・テーマについて情報収集する ・情報収集の結果を報告する ・問題点、疑問点を討論する
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
1			
2			
3			

## 2. 3つの視点から生徒の姿を思い描く



全体計画で示された、学習課題、学習項目、育てようとする資質や能力及び態度を、どのような教材で、どのような活動を通して学ぶのかを、「生徒の興味・関心」、「教師の願い」、「教材の特性」の3つの視点から具体的に検討する。



### 単元名「大災害 そのとき私たちにできること」

単元全体の流れを、3つの視点に関連させながら構想した例を示す。

Students —生徒の興味・関心—	Teachers —教師の願い—	Materials —教材の特性—	《生徒の興味・関心を把握する》 各教科・科目等での学習や日常生活の様子、ノートや生活の記録、保護者から寄せられた生徒の様子など生徒の関心や疑問がうかがえる各種の資料を収集し、精査することが考えられる。
※スタートは、 生徒の疑問や関心から			
この地域でどんな被害が出るのか詳しく知りたい	地域の災害の歴史や被害想定について調べることで、課題意識をもたせたい	地域の被害について、十分な情報を得る活動を設定しよう	
地震や津波、交通機関など、目に見えやすいものに調査が偏ってしまうなあ	調査対象が幅広く、調査する際の焦点を絞りづらいのではないか	自治体が出している調査報告の項目分けが、調査分野の設定に参考になるようだ	
災害から身を守るために、何をしておけば良いだろう		地震、津波、火災、建物、交通機関、ライフライン、避難生活などの調査分野を設けよう	
いざというときどこに避難できるのか	個人的な問題については考えることができるようなので、地域の一員としての自覚をもたせたい	地域の人に話を聞いたり、一緒に活動したりする体験活動を取り入れたらどうだろう	
避難生活で実際に困ることは何だろう	体験活動の中から、新たな問題を発見して、探究活動が深まるように位置付けよう	地域の人々の防災意識について、インタビューする活動をどこかに入れたい	
今から個人で準備できることは何だろう	体験活動の中から、新たな問題を発見して、探究活動が深まるように位置付けよう	校外での活動時間の確保が難しそうなので、夏休みの宿題にしよう	
学校の防災訓練も、地域の防災訓練もあまり参加した行事ではない	体験活動の中から、新たな問題を発見して、探究活動が深まるように位置付けよう	インタビューだけでなく、地域の人と合同で防災訓練してみよう	
いつもの訓練は、話を聞けばいいから具体的な活動がない	体験的な教材を探してみよう	図上訓練用の教材で、避難所運営を疑似体験できるものがある	
	この教材を使ってどんな活動ができるか考えてみよう		

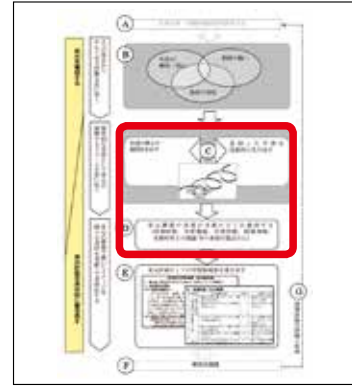
Students —生徒の興味・関心—	Teachers —教師の願い—	Materials —教材の特性—
<p>避難所では、思っていたよりも様々な事態が起こるんだなあ</p>	<p>この教材を使ってどんな活動ができるか考えてみよう</p> <p>避難所運営をテーマにすることで、災害時の具体的な行動を考えやすいのではないか</p> <p>生徒間の協同、地域の人との協力の場面を設定でき、地域社会への貢献について意識する活動として導入しよう</p>	<p>条件設定を変えることで、複数回の実施にも対応できる教材である</p> <p>災害時に避難所で起こる様々な出来事について、グループで考える教材である</p> <p>十分な準備を行えば、地域の人や近隣の小中学校の児童・生徒とも合同で実施できるのではないか</p>
<p>疑似体験を通して気付いたことを、具体策の検討にかしていこう</p>	<p>避難所全ての動きでは、考える範囲が広すぎないか</p>	<p>体験活動で気付いたことを具体的な避難所での行動としてまとめよう</p> <p>自治体が発行している避難所運営マニュアルを元にすれば、より具体的な行動を考えられそう</p>
<p>自分とは異なる視点をもった発表を聞くと、知識の幅が広がり、疑問が生まれるなあ</p>	<p>活動の区切りごとに発表の機会を設定して、新たな問題点に気付くようにしたい</p>	<p>被災者管理、情報、食料・物資、施設管理、保健・衛生、ボランティアなどの係に分かれて具体策を考えさせよう</p> <p>地域の災害を調べた後、避難所運営の具体策をまとめた後に、それぞれ発表会を設定しよう</p>
	<p>この単元のまとめとして、学習の成果を発表する機会を設けてはどうだろうか</p>	<p>地域に開いた発表会として防災フォーラムを実施しよう</p>
<p>地域の人の助言から、災害時の高校生に対する期待は高いんだなあ</p>	<p>年間を通した活動のバランスを考えなくてよいか</p> <p>生徒との合同訓練に参加した地域の人を、フォーラムのパネラーにして、この単元での学習について助言をもらおう</p>	<p>合わせてこの単元の成果物の発表も実施しよう</p> <p>地域の災害調査を1学期、避難所運営の具体策を2学期、防災フォーラムを3学期に開催し、連続性をもたせよう</p>
<p>災害時には地域の期待に応えたい</p>	<p>このような活動を通して、学校や地域での防災訓練への意識を高めることができるのではないか</p>	 <p>単元を通して、このことを意識できるように、声を掛けていこう</p>

《意図する学習を生かす工夫》  
どこでどのような意図的な働きかけをする必要があるのか、その際に留意すべき事柄は何かなども、具体的に明らかにする。

《生徒の目線で丁寧に単元を構想する》  
各学校が設定した目標及び内容、育てようとする資質や能力及び態度が、確かに実現するかどうかを判断する。

### 3. 探究的な学習として単元が展開するイメージを思い描く

これまでに考えた単元構想を具体化する際に、学習過程を探究的にするよう、単元の計画を考えた。

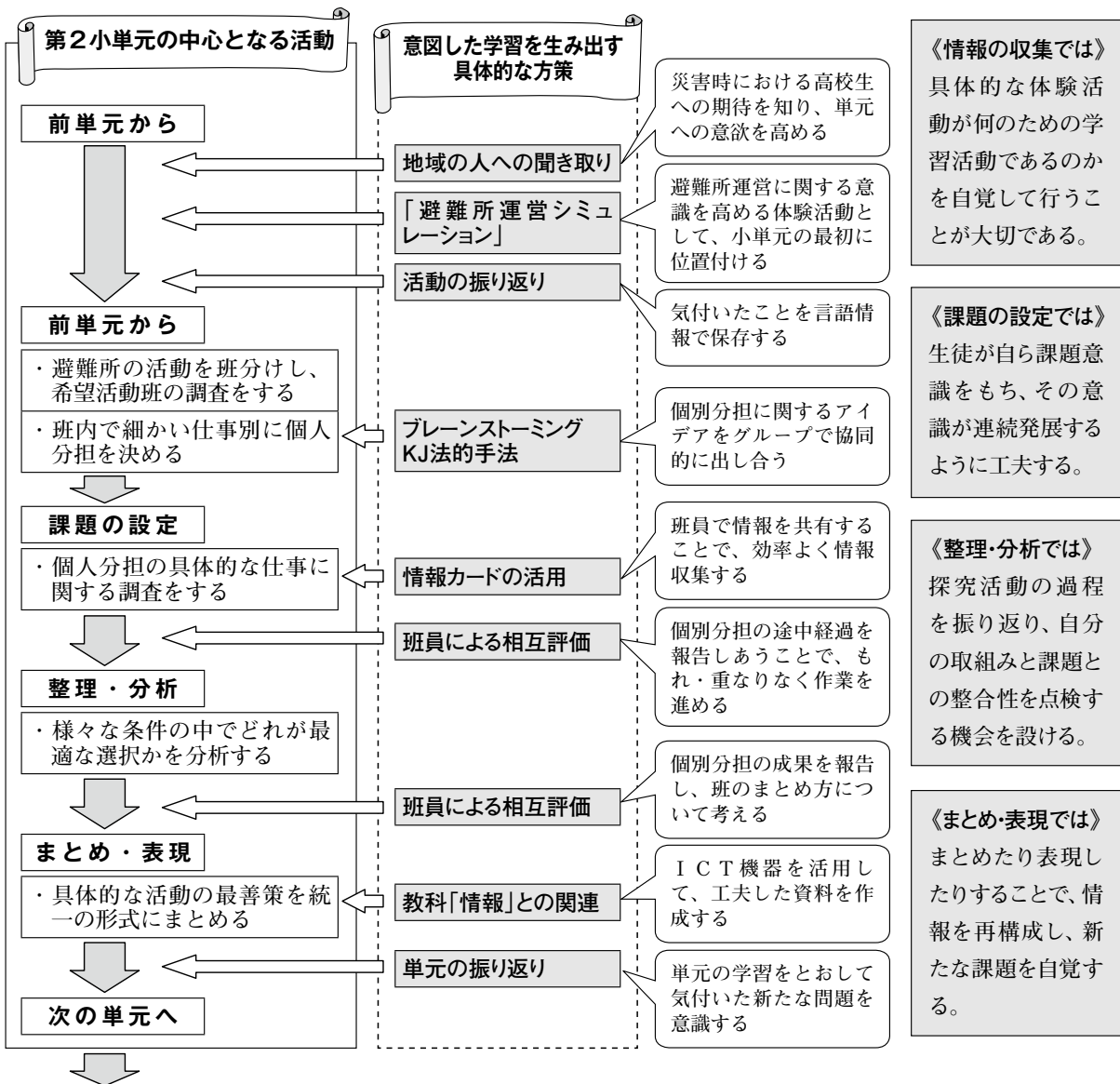


#### 第1小単元「地域の被害想定を調査する」の概要

10のテーマで班編成し、この地域の災害の歴史と今後の災害で考えられる被害についてまとめ、ポスターセッションを行う。

#### 第2小単元「避難所での活動を具体化する」の中心となる活動

自分が通う学校が避難所となったときに、高校生として具体的にどんなことができるかを考え、まとめて発表する活動を、この単元の中心の活動とする。



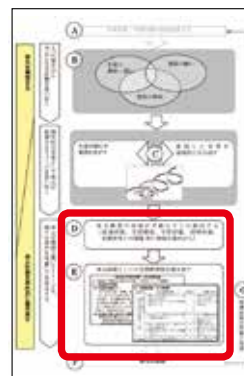
#### 第3小単元「災害図上訓練を実施する」の概要

第2小単元までの学習を生かして、地域の人、近隣の小中学生と合同で「避難所運営シミュレーション」を実施する。さらに、本単元での学習の成果を「防災フォーラム」として、地域の人を招いて開催する。



#### 4. 単元計画を具体的に書き表す

単元の構想で描いたイメージを、様々な条件を考慮して具体化する。



### 平成 25 年度 総合的な学習の時間「探究プロジェクト」 第 2 学年 単元計画

1. 単元名 「大災害 そのとき私たちにできること」 (35 時間)

#### 2. 単元設定の理由

##### (1) 教材について

この教材は、生徒が地域の人と問題意識を共有しやすく、世代を超えた協同的な体験活動が可能である。また、高校生としてできることを具体的な状況に基づいて考えることで、地域・社会の一員としての自覚を高め、どのような貢献ができるのかを考えさせる機会とした。

##### ア 生徒の実態

本校の生徒は地域住民との連携や防災意識が十分であるとはいえないが、震災や災害対策等に関する興味・関心は高まっている。

##### イ 地域の実態

この地域は、大地震が想定されており、防災に関する意識は高い。高校生の力への期待は強いが、地域ごとの防災訓練等への高校生の参加が少なく、若者の防災意識の低下が懸念されている。

##### (2) 単元で育てようとする資質や能力及び態度

学習方法	・ 複雑な問題状況を踏まえて適切な課題を設定する。 ・ 複雑な問題状況における事実や関係を構造的に把握し、自分の考えを形成する。
自分自身	・ 自らの行為について当事者意識と責任をもって意思決定する。
他者や社会	・ 異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重しようとする。 ・ 課題の解決に向けて様々な社会活動に当事者理解し意識をもって参画する。

##### (3) 単元で学ぶ内容

ア 過去の災害の被害状況の認識とその反省に基づく防災意識や取組の意義

イ 地域社会の一員として、災害に備えた安全なまちづくり、学校づくりの担い手としての自覚と取組

#### 3. 単元目標

地域で働く人々の仕事に対する姿勢や願いを通して、職場体験を通して生じた関心や疑問を探究することで、職業や自分に対する理解を深め、自己の将来の生き方を考える。

#### 4. 単元の評価規準

評価の観点	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会に関すること
評価規準	①地域の災害に関する調査から、自ら解決したい課題として設定している。 ②異なる立場の人から情報を収集し、それぞれに対応した避難所運営マニュアルの具体策を作っている。	①グループでの活動において、災害時における自分自身の役割を明らかにし伝えている。	①様々な立場から災害時における、高校生に対する期待について理解している。 ②災害発生時に地域・社会のためにできることを具体的に考えて行動している。

全体計画にある「資質や能力及び態度」と「内容」を踏まえ、この単元の独自性や重点が見えるよう、全体計画より具体的に書く。

単元の目標は、箇条書きで複数個示す方法もある。

育てようとする資質や能力及び態度を、生徒が取り組む学習活動との関連において具体的に示す。

### 5. 指導計画 (35 時間)

	主な学習活動	形態	場所	指導上の留意点
地域 第1小単元 12時間 地域の被害想定を調査する	<b>単元オリエンテーション (1時間)</b> ・単元目標、評価規準の伝達 ・班テーマの希望調査 (10のテーマから選択する)	学年	ホール	・テーマは、地震、津波、火災、建物、交通機関、ライフライン、避難生活などが考えられる
	<b>テーマの理解を深める (3時間)</b> ・各班のテーマに関連する情報を収集(図書文献検索、インターネット検索) ・個々の情報を関連付けて情報共有(ウェブマップ) ・個人分担(小テーマ)の決定	個人 班	図書室 PC室 教室	・関連する情報を整理することで適切なテーマ設定につなげる
	<b>小テーマについて調べる (4時間)</b> ・各個人で情報を収集(図書文献検索、インターネット検索) ・調べたことをまとめ、班内発表(ICT機器の活用)	個人 班	図書室 PC室 教室	・具体的な表やグラフを活用するようにアドバイスする
	<b>ポスターセッションをする (4時間)</b> ・ポスターの構成要素を検討(ブレンストーミング→KJ法的手法) ・要素のレイアウトを検討し、ポスターを作成 ・発表原稿の作成と発表準備 ・ポスターセッション	班 クラス	図書室	・表やグラフ、写真を使用した視覚的な工夫のアイデアを紹介する
避難所 第2小単元 13時間 避難所での活動を具体化する	<b>地域の要望を知る (1時間)</b> ・小単元、聞き取り調査の説明 ・夏休みに聞き取り調査を実施(インタビュー)	クラス	ホール 各地域	・今後の流れの見通しをもつための意見交換をする
	<b>「避難所運営シミュレーション」(3時間)</b> ・「避難所運営シミュレーション」(擬似体験) ・擬似体験で気付いた問題点の整理(ワークシート) ・活動班の希望調査	班	教室	・活動班は、被災者管理、情報、食料・物資、施設管理、保健・衛生、ボランティアなどが考えられる
	<b>活動班の具体策を検討する(5時間)</b> ・活動班の仕事の検討とグループ化(ブレンストーミング→KJ法的手法) ・グループ化したものを分担(インターネット検索) ・各自が具体策を検討し班内発表(相互評価票) ・個人分担を再検討してまとめる	活動班 個人 活動班	教室 PC室	・前時で得た問題を生かして検討するようにする ・聞き取り調査で得た情報を情報カードで共有する
	<b>活動班の仕事を発表する(4時間)</b> ・活動班ごとに発表資料を作成(ICT機器の活用) ・発表原稿の作成と発表準備 ・具体策の発表(相互評価票)	活動班 クラス	PC室	・クラス内で他の班の調べた様々な情報を共有する
災害図上訓練 第3小単元 10時間 災害図上訓練を実施する	<b>災害図上訓練の準備をする(1時間)</b> ・災害図上訓練についての説明 ・新グループ内で係分担	学年 班	ホール	・新グループで前単元までの学習を活用する
	<b>災害図上訓練(3時間)</b> ・地域の方と「避難所運営シミュレーション」(擬似体験) ・活動を振り返り、課題を検討(相互評価票)	全体 班	ホール	・地域の方、小・中学生と合同で実施する ・授業参観として開催する
	<b>防災フォーラムの準備をする(3時間)</b> ・活動班の仕事の修正点の検討と整理(ブレンストーミング→KJ法的手法) ・活動班の仕事の具体策を修正 ・発表原稿の作成と発表準備	活動班 個人	教室 PC室	・活動の中で得た問題点を修正案に反映する
	<b>防災フォーラムを開催する(2時間)</b> ・地域の人と討論する(パネルディスカッション) ・活動班の成果を発表(ポスターセッション)	全体	ホール	・発表を相互評価する
	<b>単元を振り返る(1時間)</b> ・活動に対する自己評価(ワークシート)	個人	教室	・新たな課題の発見につなげる

年間指導計画と照らしながら、探究的な学習となるよう、具体的に描いていく。

時数配当は、生徒が体験的な学習を十分とれるよう考慮して決める。

学習のまとまりごとに学習活動を決め、生徒の意識に沿った探究活動を進める。

外部の人と合同の体験活動を行うために、指導体制が十分に整う日を設定する。

### 第3節 単元計画の具体例

#### 事例① 単元名：第1学年「自分と社会のつながりを考える」（18時間）

##### 年間指導計画

1年	社会と自分のつながりを考える」	「社会問題を深く掘り下げる」
	インターンシップを中心活動とした単元 (18時間) ～クラス単位～	ディベートを中心活動とした単元 (17時間) ～クラス単位～

##### 単元の目標

- 働く現場における問題解決の体験を通して、働く人の思いや社会で求められる力を知る。
- 協同的な活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れる姿勢をもつ。
- 明確な課題を設定したインターンシップを通して、主体的に問題解決する姿勢を身に付ける。
- レポート等の作成、発表会の準備を通して、自らの体験が的確に伝わるように表現する。
- 仕事の本質に迫る活動を通して、職業選択に対する多様な視点を身に付ける。

##### 単元の展開（18時間）

テーマ 時数	主な活動内容	集団	指導上の留意点
【生徒の関心や疑問】 多様な仕事に関連しあうことを知る活動から、様々な職業への関心を高め、訪問企業での活動に対する課題意識をもつようにする。	見えない仕事を意識する(3時間)	班 個人 班 クラス	・地元企業への興味を喚起し、仕事・職業の選択の幅を増やすことで、候補企業選定につなげる。
	【教材について】 企業等と十分な協議を事前に行い、責任ある仕事に従事することで、十分な成果があらうような体験活動にする。	インターンシップガイダンス(1時間) ・職業体験の意義を説明 ・単元計画と評価規準を説明	学年
【教師の願い】 多様な職業に興味・関心を広げたい。 職場体験を通して、社会で求められている資質や能力及び態度について学ぶようにしたい。	実践の目的を絞り込む(8時間)	個人 クラス	・したい仕事以外にも学ぶことがあることを伝える。 ・実習の充実には事前準備が大切であることを意識させる。 ・生徒一人ひとりの実習の目的を明確にする。
	ビジネスマナー企業経営講座(1時間) ・会社訪問のマナーを学ぶ ・企業経営の視点を学ぶ (外部講師講座)	学年	・実習で必要なマナーを身に付け、実習への意識を高める。
【単元を終えた生徒の姿】 様々な体験活動を通して、企業活動の多様性に気づき、自らの能力を発揮し、どのように社会へ貢献するかを考えるようになって欲しい。	【夏休み中】 実習する	個人	・生徒の実習先を巡回し、企業からの要望等にすぐに対処できる体制を整備する。
	体験レポートを作成(夏休み中)	個人	
	体験レポートを作成(2時間) ・夏休み中の成果を班内で報告 ・体験レポートの作成を継続	班 個人	・班内で相互評価することで、修正すべきことを確認する。
	体験レポートの発表準備(3時間) ・発表原稿の作成と発表の練習 ・班内発表と班代表の選出 ・クラス内発表と代表選出	個人 班 クラス	・調査事項について、ポイントをおさえて発表できるよう指導する。
体験レポート発表会(1時間) ・クラス代表が発表	学年		
【7時間】 体験を言葉で整理する	単元を振り返る(1時間) ・活動に対する自己評価	個人	

## 事例② 単元名：第3学年「知への旅立ち -18歳の挑戦-」(25時間)

## 年間指導計画

3年	「知への旅立ち -18歳の挑戦-」	「3年間を振り返る」
	個人研究を中心活動とした単元 (25時間)～分野別～	ディベートを中心活動の単元 (10時間)～クラス別～

## 単元の目標

- 自らが設定した課題を解決する活動において、主体的、協同的に探究活動に取り組む。
- 収集した情報や他者の意見を理解することで、社会問題等への自らの課題意識に気付く。

## 単元の展開 (25時間)

主な活動内容	時数	指導上の留意点	評価基準	教科等との関連
<b>オリエンテーション</b> ・単元の目標、評価規準を説明 ・テーマを紹介し、希望調査 (8のテーマから選択する)	1	・生徒の興味関心を喚起するように説明を工夫する		・テーマは、外国文化・歴史、日本文化・歴史、情報、健康・福祉、社会・経済、自然・環境、教育など
<b>テーママップを作る</b> ・グループで小テーマのアイデアを出す (ブレインストーミング→KJ法的手法) ・アイデアを整理し、小テーマを決める (ウェビングマップ) ・小テーマ班の希望を調査する グループ課題の設定	3	・小テーマの洗い出しに向けて仮のグループ分けをする ・生徒の興味・関心に沿って班を編成する	・班員の意見を受け入れ、多様な視点でアイデアを出している	・これまでの総合的な学習の時間で習得した知識・技能を活用する
<b>個人テーマについて調査する</b> ・小テーマ班でテーマに関する課題を探す ・課題の中から個人テーマを設定する ・個人テーマについて調査する (インターネット検索、文献検索、インタビュー、アンケート調査、フィールドワーク、実験等) ・個々に調査状況をまとめる (ワークシート) 個人課題の設定～情報収集	5	・各時間ごとに報告し、質問を受けることで、作業の進行状況を把握する ・図書館を有効活用するように指導する	・自ら設定した課題の解決に向けて、テーマに応じた方法で主体的に活動している	・各教科・科目の教員がアドバイザーとして指導する
<b>班内で報告して自分の状況を把握する</b> ・小テーマ班で調査状況を報告する ・報告に対して互いにアドバイスを する 整理・分析～まとめ・表現	1	・アドバイスを受け、問題点に気付くようにする	・自らの問題点に気づき、具体的な改善策を考えている	社会 技術・家庭
<b>論題を設定して論文を書く</b> ・論文を書く ・必要に応じて調査を継続する ・班で報告しあい、状況を確認する ・論文を仕上げ、発表資料を作成する (ICT機器の活用) まとめ・表現～新たな課題の発見	10	・収集した情報を整理・分析する機会を適宜設定する ・学び合いが探究の質を高めることを意識する	・論文作成過程において、賛否を明らかにしながら協同的に学び合っている	・教科「国語」で学習した論文の書き方を活用する ・教科「情報」で習得した知識・技能を活用する
<b>テーマクラス内研究発表会</b> ・個人の研究成果を発表し、相互評価する ・相互評価を受けて、クラス代表を決める ・単元を振り返る	2	・自らの活動を振り返ることで新たな問題を意識するようになる ・他のクラスの生徒とも討論する機会を設定する	・他者の発表を聞き、多様な主張を理解し、自己の在り方とつなげて考えている	
<b>学年研究発表会</b> ・クラス代表が研究成果を発表する ・小集団に分かれてテーマを決めて討論する	3			

**事例③ 単元名：第2学年「世界を舞台にフィールドワーク」（35時間）**

**年間指導計画**

2 年	「世界を舞台にフィールドワーク」
	課題探究の活動と修学旅行を関連させる単元 (35時間) ～分野別～

**総合的な学習の時間 第2学年単元計画**

**1. 単元名**

「世界を舞台にフィールドワーク」（35時間）

**2. 単元設定の理由**

これからの社会は、グローバル化が一層進展し、異なる文化や価値観を受け入れながらも、協同して問題を解決する資質や能力が求められていく。そのため、青年期に海外の文化や歴史、経済等に直接触れ、考えることで、自らが国際社会の一員であることを強く意識し、国際社会の持続可能な発展への関心を高めていくために、この単元を設定した。

実際に現地を訪問する体験活動を取り入れた国際理解の単元も考えられる。

**3. 単元の概要**

**(1) 単元の目標**

日本とは異なる文化や歴史、経済等に関心をもち、テーマに関する考えをまとめる活動を通して、自ら設定した課題に関する十分な事前調査を元にした現地調査を行うことで、様々な問題を国際社会の一員としての視点で捉え、異なる文化や価値観を受け入れ、尊重することの大切さを理解し、主体的、協同的に社会のために貢献しようとする態度を育てる。

**(2) 単元で育てようとする資質や能力及び態度**

**【学習方法に関すること】**

- ア テーマに関する仮説を立て、その調査に向けた事前及び現地の調査計画を立てる。
- イ 学習の中で得た知識や技能を、次の課題や生活の中で出会う問題の解決に役立てる。

**【自分自身に関すること】**

- ウ 国際社会における一員としての自覚をもち、自らの在り方を考える。

**【他者や社会とのかかわりに関すること】**

- エ 異なる文化や価値観を尊重して、様々な人々とコミュニケーションを図る。

全体計画と照らし合わせ、生徒の成長の姿を具体的な目標として設定する。

**(3) 単元で学ぶ内容**

- ア 世界の国々の文化や歴史、経済、価値観の特徴、国際社会の一員としての自覚
- イ 国際社会の持続可能な発展のための課題と共生に向けた取組

**4. 単元の評価規準**

評価の観点	よりよく問題を解決する資質や能力	学び方やものの考え方	主体的、創造的、協同的に取り組む態度	自己の在り方生き方
単元の評価規準	現地調査や論文作成時に、テーマに関する自分なりの考え方をもって計画し、調査・分析している。	現地調査において、異なる文化の人々の意見を尊重しながら、互いの考えを理解している。	互いに発表し合うことで、得た知識や技能を多角的に見直し、よりよい解決に向けて改善している。	自らの考えをまとめる際に、国際社会の一員として何ができるかを考えている。

5. 指導計画 (35 時間)

	主な活動内容	探究の流れ	指導上の留意点	行事・教科等との関連
小単元① (15時間) 調査課題を設定する	事前学習オリエンテーション (1)			
	事前調査レポートの作成 (9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習のグループ編成</li> <li>グループテーマの設定</li> <li>グループテーマの派生事項から個人テーマの設定</li> <li>個人テーマの調査</li> <li>渡航先の政治・経済、文化、生活、自然・環境等を学ぶ</li> <li>個人テーマの調査を継続し、調査課題を設定</li> <li>グループ内で中間報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の設定</li> <li>↓</li> <li>情報の収集</li> <li>↓</li> <li>整理・分析</li> <li>まとめ・表現</li> <li>↓</li> <li>課題の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の興味・関心に応じて講座分けする</li> <li>各教科と連携し、教科と関連する講座を教員で分担する</li> <li>生徒の多様な興味・関心に対応できるような講座を設定する。</li> <li>適宜報告することで互いにアドバイスする</li> </ul>
	報告 (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査レポート報告</li> <li>グループ発表用ポスターの作成</li> <li>クラス内発表会</li> <li>発表の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の収集</li> <li>整理・分析</li> <li>まとめ・表現</li> <li>↓</li> <li>課題の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校外での活動を取り入れる。</li> <li>調査レポート作成、調査候補地の選定は夏休みの課題</li> <li>個々で収集した情報を班内で共有し、協同的に作業する。</li> </ul>
現地調査を準備する 小単元② (8時間)	現地活動計画の作成 (7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>班別の活動計画案を作成</li> <li>渡航先の学校等と事前交渉</li> <li>活動計画案を中間報告し、相互評価</li> <li>活動計画案を修正</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の収集</li> <li>↓</li> <li>整理・分析</li> <li>まとめ・表現</li> <li>↓</li> <li>課題の設定</li> <li>整理・分析</li> <li>まとめ・表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての班員の調査ができるように計画する</li> <li>発表で得られた問題点を修正する</li> <li>個々の活動とグループテーマとを関連させることで、生徒間の協同的な活動になるように計画する。</li> </ul>
	直前オリエンテーション (1)	課題の設定		
	渡航先での現地調査 (修学旅行中)	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査で事前に立てた仮説を検証</li> <li>現地の学校等との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の収集</li> <li>整理・分析</li> <li>↓</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>非言語情報の記録に注意する</li> <li>修学旅行3日目班別研修</li> </ul>
小単元③ (12時間) 自己の成長を記録に残す	事後学習オリエンテーション (1)	↓		
	論文の作成 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人テーマについて論文を作成 (冬休み)</li> <li>グループ内中間報告</li> <li>論文を修正する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめ・表現</li> <li>↓</li> <li>課題の設定</li> <li>整理・分析</li> <li>まとめ・表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互評価することで、修正点を明確化する</li> <li>論文作成は冬休みの課題</li> </ul>
	論文の発表 (7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ発表内容の検討と役割分担検討</li> <li>グループ発表資料の作成</li> <li>クラス内発表と相互評価</li> <li>クラス代表の選出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の設定</li> <li>情報の収集</li> <li>まとめ・表現</li> <li>↓</li> <li>↓</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>役割分担して協同的に作業する</li> <li>生徒の実感や感想、写真や映像などの情報を重視して収集する。</li> </ul>
	単元の振り返り (1)		<ul style="list-style-type: none"> <li>↓</li> <li>課題の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな課題を意識する</li> <li>1、2年生合同で発表会を実施</li> </ul>